

### 第3回情報社会システム研究会 開催報告

日時 2011年11月11日7時～8時半

場所 国立情報学研究所20階2005講義室1

タイトル「韓国の選挙とSNS政治」

講師 高選圭 韓国選挙研修院教授

討論者 李洪千 慶應義塾大学総合政策学部専任講師（研究会・幹事）

参加人数 9人

今年度最後の情報社会システム研究会では、ソウルより選挙研究の専門家である高選圭教授をお招きして開催した。韓国では、10月26日にソウル市長選挙が行われたばかりであり、高先生からは、非常にホットな事例が報告された。

高先生によれば、2011年10月時点で韓国におけるスマートフォン利用者は2000万人（人口の4割程度）にのぼり、ツイッター利用者は400万人ほどである。そして、このツイッター利用者が政治的に熱心な層と重なる点が韓国のSNSの状況として特徴的だと言うことであった。また、韓国では2002年大統領選挙以降、選挙で使われるコミュニケーションツールが変化しているが、2010年統一地方選挙ではツイッターなどのSNSが主役となり、2011年ソウル市長選挙では特にツイッターとフェイスブックの利用が注目されたと言う。ご講演の中で高先生は、世論をツイッターが左右している点を指摘され、さらに、選挙運動においてツイッターやフェイスブックが有効なメディアとして使われるようになったと述べられた。また、候補者の陣営でツイッター用の対策チームが活動している写真も示された。そして、最後に、今後の韓国におけるSNS選挙の課題として、党派を超えて表現の自由の保障をめぐり、公職選挙法による規制の在り方について検討が必要である点を指摘された。

高先生のご報告に続き、韓国のインターネット選挙の研究を行っている李洪千氏が討論を行った。李氏は、ソウル市長選の結果がSNSの影響によるものであったのか、それともほかの政治的要因によるところが大きかったのか、注意が必要だ、と質問を投げかけた。さらに、李氏は単一候補に選出される過程ではSNSの効果は低いのではないかと指摘した。そして、SNSには勝つ（見込みのある）人を強化する効果があるが、負けそうな候補を勝たせるわけではないと述べ、高先生のご報告に対するフロアからの活発な議論を誘発する役割を果たした。

李氏のコメントを皮切りに予定時間を過ぎても質疑応答が終わらないほど議論は白熱し、研究会の第2ラウンドは、高先生を囲んで行われた懇親会へと続いたのである。

（執筆：主査・清原聖子）



（高先生講演風景）